

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296300011		
法人名	株式会社 ブレインシステム		
事業所名	グループホーム 虹の森 (1階2階合同)		
所在地	周智郡森町森1588-5		
自己評価作成日	平成24年2月14日	評価結果市町村受理日	平成24年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2296300011&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○利用者様の尊厳を守り、地域とのつながりを持って必要とされる事業所をめざす。○利用者様が季節を感じて頂ける年間計画を立て、楽しんで生活して頂けるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

天竜浜名湖鉄道、遠州森町駅を北に歩くこと10分ほど、付近の住宅街に溶け込んで事業所はある。利用者に寄り添う時間をできるだけ長くもち、会話内容や表情観察から変化をとらえ、対応についてチームケアで取り組めるよう全職員で相談しながらサービスに努めている。月に1~2回は季節を感じる行事を行って、昔への回想から話を膨らませ心の安寧に繋げて欲しい、との思いが管理者に強い。散歩や歌、踊りなどで身体の残存機能をひらめかせて、利用者から笑顔をもたらすことが、職員のやりがいと活力になっている。「温かいものが食べたいな」との利用者からの発語は、利用者職員で囲んだ忘年会の鍋パーティーを産み、恒例の行事へと昇華しつつある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示して、意識づけをしている。	開所以来5年が経過し、法人グループ全体で理念の見直しを図り、「介護理念」「会社理念」「指針」が設けられた。また「今月の目標」と「自己評価」も導入され、会議で話し合い反省に繋げている。今回の見直しで、現場の声が本部に上がりやすくなり、意識向上の兆しが見えてきたという。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	祭典時には交流を図っている。	自治会には加入していて、祭りには屋台が立寄りお囃子の披露してくれる。フラダンスのほか、職員の父親やボーイスカウトなどボランティアの受入も多い。高校生の体験学習も2年目となり定着化しつつある。事業所の夏祭りでは地域へ呼びかけてはいるが、期待する成果に繋がっていない。	地域の奉仕活動に加わったり、地元中学生の社会体験を申し出たりして、地域から事業所に関わりやすくなるような働きかけを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会があれば随時受け入れている。地元の高校からの実習は受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	不定期ではあるが、ご家族様との話し合いの場を設けている。	自治会長や民生委員に参加の呼びかけを行っているが今のところ参加はない。家族を主体とした運営推進会議が不定期で開催されている。行政・地域の人たちを巻き込んで運営推進会議が開催されることが重要であると管理者は認識していて、今後、より密な呼びかけを行い開催にこぎつけることに奮闘している。	運営推進会議の年間計画を立て、参加して欲しい人たちに計画とともに会議の意義や管理者の想いを届けることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携は今のところ行ってはいない。情報の提供はしている。	町の福祉課には担当者はなく、地域包括が社会福祉協議会の中にあり相談に向いている。介護相談員の訪問は不定期ではあるが受入を行っている。交替して間もない管理者は町との協力関係の糸口を模索しているところである。	包括には運営推進会議に毎回参加してもらえることを期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関に鍵をかけたり、身体拘束をしていない。	施錠の必要性を現利用者の行動の中からはあまり感じていないこともあり、手薄になりがちな入浴時も見守り体制を強化して、玄関施錠を行っていない。職員は利用者との会話など対応において優しく気を配っていて、スピーチロックの問題も発生していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在話し合いの場は設けていないが、世間で話題になった時は職員間で話し合いをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	必要であれば支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様が理解、納得していただけるよう、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や会議等で出された意見などを話し合い実践している。	家族会は年2回開催している。面会者が多く、毎日という家族もいる。職員と接する時間があるため、要望なども運営に反映されて家族の安心に繋がっている。「虹の森通信」への職員手書きのコメントは、利用者と家族を思う優しさの表れとして象徴的である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ミーティングの場と意見が出た時は、随時行っている。	月に1度のミーティングがあり、職員の勤務事情に関する意見や利用者へのサービス提案も率直に話されている。定期的な個別面談はないが、随時個別の話し合いは持たれている。家族や業者などの来訪時には「チームワークがいいね」との声ももらえていて、職員の励みになっている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の様子を観察し、勤労意欲を把握している。そして、上司に伝え相談している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、社外研修を行っていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し、交流を図っていく。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望に耳を傾けながら、本人に合った支援が出来るように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にご家族様と話す場を設け、意見・要望を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会議等で話し合いの場を設けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日を通して、様々な事を共に行い、楽しい雰囲気づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、日ごろの様子をお伝えし、支援していく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限はなく、いつでも面会できる。	よき話し相手として、利用者の友人の訪問もある。手芸を趣味としてきた利用者の刺繍作品は夏祭りに展示され好評であった。美容院や稲荷神社など馴染みの場所へは付添い支援がなされている。また、新聞購読や図書館を利用する入居者もいて、自立支援への取り組みが感じられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の場を通して、同じ仲間として支えあう関係を保てるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に行っていない。相談があれば応じていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の要望に答えられるように努めている。	利用者に寄り添う時間をできるだけ多く持ち、会話内容や表情観察から、その変化や気づきを「申し送りノート」「個人介護記録簿」に記載し意向の把握に努めている。入居前には利用者家庭に出向き、バックグラウンドや生活暦を入念に聞き取りアセスメントに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、面会時に家族からの情報を参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノート、介護記録等で状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、家族の意見を聞き、介護計画を進めている。	今までは定期的なアセスメントの取り直しやモニタリングはなく介護計画が作成されてきたが、今後は担当制のもと、3ヶ月に1度のアセスメントの取り直しとモニタリングを行い、介護計画の作成、家族の同意、そして評価へとつなげていく予定でいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を基に職員間で情報の共有をしながら、介護計画はされているが、十分に生かされていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々発生した問題点には柔軟に対応していきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慰問に来所して頂き、交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診と必要に応じて受診を進めている。	協力医はあるが、殆どどの利用者は以前からのかかりつけ医に家族が付き添い受診している。半月から1ヶ月に1度の受診が大半であり、必要に応じ介護情報のコピーを持参し医師に開示している。クリニックの夜間対応はあるも、現実には救急搬送となっている。服薬のダブルチェック及び週3回の看護師訪問がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が入居者の状況を把握し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室と家族と相談しながら、受入体制を進める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と主治医に相談し、今後に向けての対応を検討する。	契約時に「できること、できないこと」の説明がなされ、家族に同意してもらっている。自立支援重視を旨とする方針は変わらないが、状況によっては看取り対応も考慮していきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練は行っていない。今後考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を計画しているが、地域との協力体制はできていない。	目標達成計画に掲げた夜間想定訓練はできていないが、年2回の避難訓練を、提携する警備会社と行っている。今までに訓練に消防署や地域からの参加はないが、双方ともに協力を依頼する考えである。食料備蓄は3日分、防災ズキン・ヘルメットは常備されている。	まずは夜間想定訓練を実施、その後地域と連携がとれた防災訓練を行えることを期待する。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々生活の中で、やさしく暖かみのある言葉がけに務めている。	呼び方は苗字や名前に「さん」づけとしている。トイレでは必ずドアの外に立ち利用者の状態を見守っていたり、居室へはノックをして入るなど利用者のプライバシーを尊重している。法人グループ内の内部研修でビジネスマナーや接遇研修を行い、報告書をもとに職員会議で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に伺って、本人に決定して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の要望を聞き入れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を定期的に行っている。職員と会話しながら、その日に着る洋服を選択している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食やお楽しみ献立を取り入れている。食事の支度や食器拭きなどを行ってもらっている。	カロリー計算された週単位の献立が用意されている。手作りおやつは当番制で、たこやき、クレープなどには利用者が参加している。食事の準備や下膳も手伝っている利用者が多く目につき、自立度が高いことが覗える。また、毎月何らかの行事食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算されている食材を取り入れている。1日の摂取量(食事、水分)など把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各入居者に応じた口腔ケアをしている。3月から訪問歯科を予定している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者に合った対応をしている。	自宅ではおむつ使用であった利用者が、家族と職員とで話し合いを重ね、紙パットに替え、見守りや介助でトイレでできるようになった例もある。夜間には声かけ誘導から睡眠優先まで、利用者のパターンに合った対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をつけている。指示薬を投与している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者に入浴の有無を確認し行っている。	入浴は毎日可能であるが、利用者の希望を聞いたうえで隔日入浴が殆んどである。入浴はマンツーマン介助で、お湯の張替えはその都度行われている。水虫対策には個々に足拭きマットが用意され清潔保持に努めている。全身観察による身体の変化は介護記録に留め情報の共有が図られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の訴えにより随時行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方ファイルをファイルにとじ、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限り務めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	計画的に外出の予定を立て実践している。地域への働きかけはできていない。	好天日の散歩は日常化している。ドライブの要望もあり、職員との買い物ドライブを楽しんでいる利用者もいる。計画された外出では、小国神社、稲荷神社、コスモス畑、ひまわり畑など人の行き交う場所に出かけ季節を楽しんでいる。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができない人に限り、ホームで「おこずかい」として預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れて、入居者全員で作り上げたものを飾り付けしている。	辰年にちなんだ龍の貼り絵の大作は利用者と職員が共同で作ったもので、壁一面を飾っているほか、季節感のある利用者手作りの作品が棚に並んでいる。掃除、換気、手摺消毒は毎日行われ、加湿器・温湿度計の設置もある。フローア掃除は利用者も手伝うという。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し、自由に過ごせるようにしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に好みのものを持ってきていただいている。	自宅から好みのものが持ち込まれている。換気と掃除が毎朝行われ、全部屋には加湿器が用意されていて、インフルエンザ対策に余念がない。布団干しは適宜行われ、部屋は清潔に整理されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の段差がなく、ホール・廊下には手すりがついている。		